



# 有馬入城前夜

## 市役所はキリスト教会堂だった!?

# 小早川の鬼瓦

なぜ沢瀉文おもたかもんの瓦が市役所から？  
なぜキリスト教との深い関係って？  
鬼瓦とふたりの領主のモノ語りに注目です！



### 現

在の市役所庁舎を建設する前に、地面の下から掘り出された鬼瓦です。左下が欠けていますが、縦約24cm、横30cm、厚さ約8cm、デザインには中国地方の大名毛利家の家紋の一つである「沢瀉文おもたかもん」が使用されています。いったいなぜ、このような瓦が久留米の地で発見されたのでしょうか。



沢瀉文鬼瓦 (久留米市教育委員会所蔵)

### 1

## 両替町遺跡

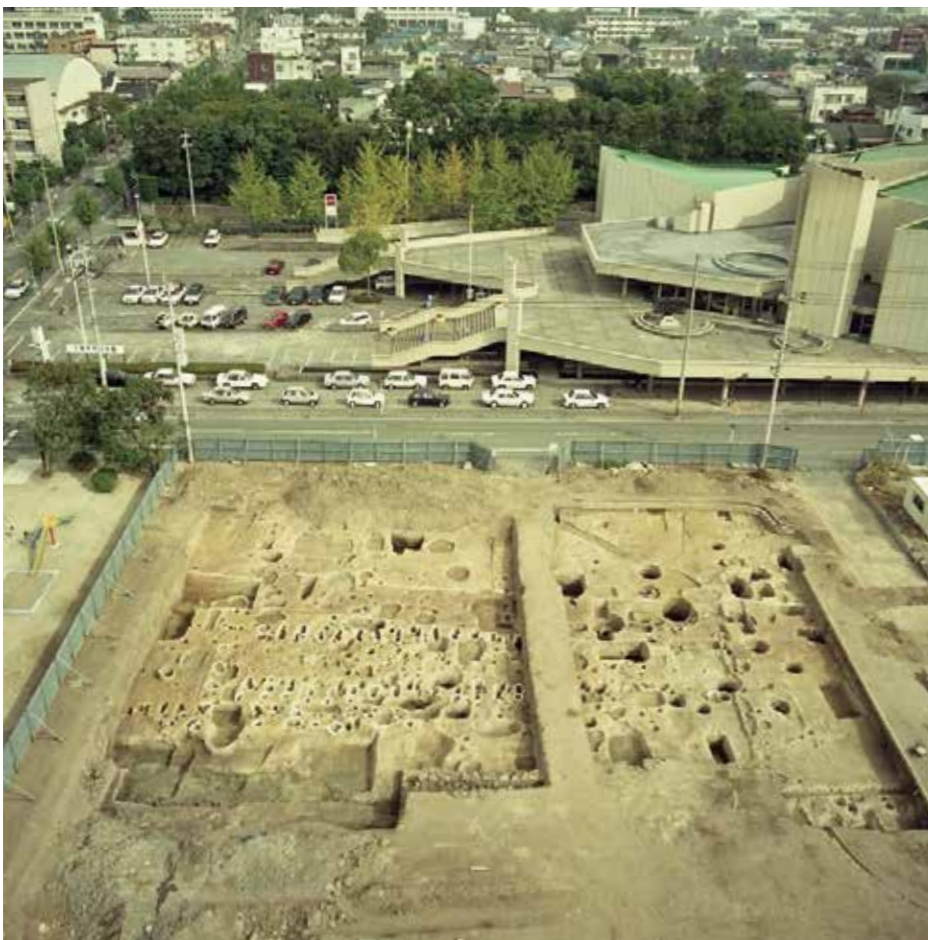
りょうがえまち

現在、久留米市役所がある場所は、江戸時代の久留米城下町の中央部にあたります。当時は「両替町」と呼ばれ、久留米藩の「御使者屋」が置

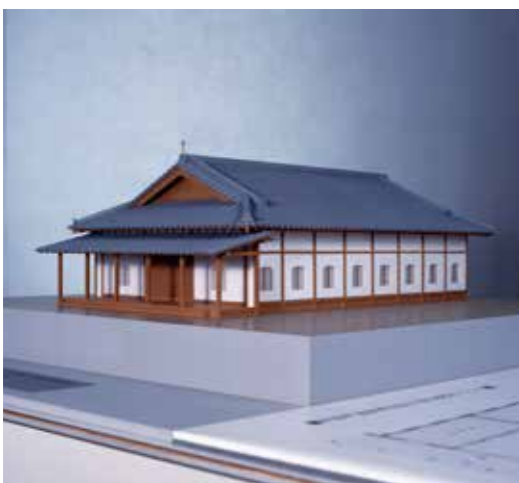
かれていました。御使者屋は、久留米藩の役人が他藩の使者や町人などと面会する、いわば迎賓館げいひんかんのような建物でした。現在の市役所にも通じる場所がありますね。市庁舎建設に先立ち、平成3〜4

年に行った「両替町遺跡」の発掘調査では、久留米藩・有馬時代のものだけでなく、有馬豊氏が初代久留米藩主となる以前、田中吉政よしまさ・忠政ただまさ時代の堀跡や、更にさかのぼる小早川秀包ひでかね時代のキリスト教会の柱跡や瓦などが発見されました。今回とりあげた鬼瓦もその一つです。

キリシタン大名だった小早川秀包は、統治する久留米の地にキリスト教会堂の建設しました。その鬼瓦に、出身である毛利家の沢瀉文を使用したのです。



両替町遺跡の発掘調査の様子。北側の建物は市民会館 (平成 28 年 7 月閉館)



小早川秀包のキリスト教会堂 (復元模型)



## 2 小早川の時代

小早川秀包が久留米城主だった時代について、みていきましょう。

1587年、羽柴（豊臣）秀吉が大軍とともに九州に攻め入り、最後まで抵抗していた島津氏を降伏させ、九州を平定しました。秀吉の領地分配によって、筑後国では山本郡全郡と御井郡・三潴郡の各一部が、小早川秀包に与えられました。秀包が21歳（数え年）の時のことです。

秀包は1567年に戦国の雄・毛利元就の9男として生まれ、13歳の時に兄の小早川隆景（元就3男）の養子となりました。本能寺の変（1



久留米城本丸跡（篠山神社）に祀られた小早川神社

582）の翌年、毛利家は秀吉と和睦し、秀包は人質として秀吉のもとに送られます。その際、秀吉の名である藤吉郎秀吉から「秀・藤」の字を受けて「藤四郎秀包」と改名しました。容姿に優れた秀包は、秀吉に気に入られ、優遇されたといえます。

また、父・元就の武勇を最も受け継いだともいわれ、四国攻めでの活躍により、伊予国宇和郡（愛媛県）3万5千石を与えられました。翌年の九州攻めの緒戦では、毛利勢が豊前方面（福岡県、大分県）に動員され、秀包も転戦して功をあげました。

黒田孝高（官兵衛・如水）のすめめでキリスト教に入信したのは、この頃のことです。1587年、秀吉の媒酌で、キリシタン大名・大友宗麟の娘と結婚しました。彼女もまた、熱心なキリスト教信者でした。

久留米城主となった秀包は、領内統治を進めるとともに、二度の朝鮮



毛利秀包墓所（山口県下関市豊北町：西楽寺）

出兵に出陣しました。この間、中世以来、根強い勢力をもつ草野氏を滅ぼし、高良山座主を殺害するなど強権をふるう一面もありました。

関ヶ原合戦（1600）を機に、秀包の立場は一転します。西軍に属して敗戦、久留米の領地は没収され、名字を小早川から毛利に戻し隠居しました。翌年、病のため、長門国赤間関（山口県）で短い生涯を閉じました。享年35。

## 3 田中の時代

関ヶ原で勝利し、筑後一国を得たのが田中吉政です。いったいどのような人物だったのでしょうか。

吉政は、1548年に近江国（滋賀県）で生まれました。北近江の戦国大名浅井長政の家臣である宮部継潤に仕え、のちに織田信長に従い、羽柴（豊臣）秀吉の配下に入ります。信長が没し、秀吉の時代になると、豊臣秀次の宿老筆頭を務めるとともに、三河国（愛知県）の岡崎城主となりました。

関ヶ原合戦では、敵軍の将である石田三成を捕縛するという功績も挙げます。戦後の論功行賞により、吉政の領地は三河岡崎10万石から筑後一国30万石余へと大幅に加増され、柳川城を居城としました。吉政は筑後に入国すると、柳川城と第2の主城である久留米城とをつ

なが幹線道路を整備しました。現在の県道23号線は、この田中道を継承したものです。

政治・軍事に優れ、土木・治水に通じ、積極的な領内支配政策を進めてきた吉政でしたが、1609年に江戸へ向かう途中、伏見（京都府）で死去しました。享年62。

その遺領を継承した忠政も、1620年に36歳で病没します。忠政に跡継ぎの男子がいなかったため、田中家は断絶し、改易となりました。その跡に、北筑後21万石の大大名として久留米城に入るのが有馬豊氏です。



田中吉政供養塔（善導寺境内）



上：田中神社（津福八幡神社境内）  
中：田中神社を合祀する安武八幡神社（社殿は市指定文化財）  
下：田中忠政が寄進した鳥居。銘文には「国主 田中筑後守橘朝臣忠政」とある（大善寺玉垂宮）

